

茨城県の経済動向（茨城経済四期報 平成20年7～9月） ～本県の経済は、やや弱い動きとなっている～

この茨城経済四期報は、茨城県の経済活動の主要項目分野に着目し、これまでに県等で公表された当該分野の主要経済指標の数値変動をもとに、本県における最近の経済状況をマクロ的視点から、限られた統計データ分析範囲の中で、概観的にまとめたものです。

本県経済は、やや弱い動きとなっている。

本県の最近の経済動向をみると、生産活動は緩やかに減少している。消費は前年と同水準で推移している。住宅投資は持ち直しの動きがみられるが、公共投資は低調である。民間設備投資は、増加見込みを維持している。雇用・労働は求人数の減少と求職者数の増加により弱い動きが続いている。景気ウォッチャー調査による景況感は、家計動向関連DI、企業関連DI、雇用関連DIがいずれも横ばいを表す50を下回っている。景気動向指数（CI）一致指数は、3か月後方移動平均で低下傾向となっている。県民経済計算四半期速報による実質経済成長率（4～6月期）は、4四半期連続プラス成長となっている。

景況等

- ・景気ウォッチャー調査9月実施の現状判断DIは、前期（6月調査）比2.0ポイント上昇し、32.2となり、平成14年12月の調査開始以来の最低値であった前期調査を上回ったが、横ばいを表す50を5期連続で下回った。業種別にみると、家計動向関連DI及び企業動向関連DIは前期比で上回ったが、雇用関連DIは前期比で下回った。
- ・景気動向指数（CI：平成17年=100）9月の一致指数は102.0なり、前月比2.1%上昇したが、平成19年6月を第14循環の茨城県の「景気の山」と設定し、それ以降は後退局面で推移している。
〈※国の景気動向指数（CI）9月の一致指数は100.9となり、前月比0.2%上昇した。〉
- ・県民経済計算四半期速報（平成20年4～6月期）の実質経済成長率は、前期比+0.7%（年率換算+2.6%）となり、4四半期連続プラス成長となっている。
〈※国の実質経済成長率（平成20年4～6月期）は、-0.7%と4四半期ぶりにマイナス成長となっている。〉

生産活動 …緩やかに減少

- ・鉱工業生産指数（平成17年=100）9月は104.6（季調済）で前月比7.2%上昇したものの、前年同月比（原指数）では2.6%低下となり、7か月連続で前年水準を下回った。四半期ベースで見ると7～9月期は、前年同期比（原指数）で5.9%低下し、3期連続で前年水準を下回った。
〈※全国の鉱工業生産指数9月は105.6（季調済）で前月比1.1%上昇となった。原指数では前年同月比0.2%上昇となっているが、四半期ベースでは前年同期比1.4%減と12期ぶりに前年水準を下回った。〉
- ・大口電力使用量9月は、前年同月比で見ると横ばいで推移したが、四半期ベースで見ると7～9月期は、前年同期比1.0%増で12期連続前年水準を上回った。

消費 …前年と同水準で推移

- ・大型小売店販売額9月は、前年同月比1.0%減と14か月ぶりで前年水準を下回った。内訳を見ると、百貨店販売額は4か月連続前年水準を下回り、スーパー販売額は14か月ぶりに前年水準を下回った。四半期ベースで見ると7～9月期は、前年同期比3.1%増で5期連続前年水準を上回った。既存店ベースで見ると、大型小売店販売額9月は、前年同月比2.6%減と6か月連続で前年水準を下回った。
〈※全国の大型小売店販売額9月は、前年同月比2.1%減と2か月連続で前年水準を下回った。〉

- ・自動車新規登録台数9月は12,345台で、前年同月比2.5%減と2か月連続で前年水準を下回った。貨物車・特殊車を除いた乗用車で見ると、軽乗用車は1.1%増となったが、小型乗用車（2000cc以下）は前年同月と同数で、普通乗用車（2000cc超）は、前年同月比8.8%減となった。四半期ベースの7～9月期は、前年同期比で見ると横ばいで推移した。
- ・二人以上世帯の勤労者世帯消費支出9月（水戸市）は、前年同月比0.2%減と3か月連続で前年水準を下回った。四半期ベースで見ると7～9月期は、2期ぶりに前年水準を下回った。
〈※全国の勤労者消費支出9月は、前年同月比1.1%減と2か月連続で前年水準を下回った。〉

民間設備投資 …全体としては増加見込み

- ・法人企業景気予測調査7～9月期調査では、20年度上期の設備投資計画額は、全産業で前年同期比5.6%の増加見込みとなっている。20年度下期は、全産業で前年同期比1.8%の増加見通しとなっている。20年度通期は、全産業で前年比3.6%の増加見通しとなっている。

建設投資 …住宅投資は持ち直しの動き、公共投資は低調

- ・新設住宅着工戸数9月は1,979戸・前年同月比29.9%増と3か月連続増となった。四半期ベースで見ると7～9月期は、5期ぶりに前年同期比で上回った。
〈※全国の新設住宅着工戸数9月は、前年同月比54.2%増と3か月連続で前年度水準を上回っている。〉
- ・公共工事請負額から公共投資の動向をみると、9月は前年同月比12.3%増と5か月ぶりに前年水準を上回り、四半期（7～9月）ベースでも1.4%増と2期ぶりに前年水準を上回ったが、20年度累計（4～9月）では、6.1%減と前年水準を下回っている。

雇用・労働 …求人数の減少、求職者数の増加により弱い動きがつづく

- ・新規求人数9月は、前年同月比10.2%減と14か月連続で減少し、新規求職者数9月は前年同月比15.7%増と2か月ぶりに増加となった。新規求人倍率（原数値）は1.17倍と5か月連続1倍超で推移している。
- ・雇用保険受給者実人員9月は10,307人で、前年同月比5.0%増と平成14年10月以来5年11か月ぶりに増加に転じている。
- ・常用労働者の現金給与総額（事業所規模30人以上）8月は、対前年同月比1.7%増と4か月連続で前年水準を上回った。きまって支給する給与（事業所規模30人以上）は、対前年同月比1.5%増と3か月連続で前年水準を上回った。

前回（平成20年4～6月）の茨城県の経済動向概況
本県経済は、このところ弱含みとなっている。

※ 参考：最近の国内経済の動向
（内閣府「月例経済報告」平成20年11月21日）

総論（我が国経済の基調判断）

景気は、弱まっている。さらに、世界経済が一段と減速するなかで、下押し圧力が急速に高まっている。

- ・ 輸出は、減少している。生産は、減少している。
- ・ 企業収益は、減少している。設備投資は、弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は、悪化しつつある。
- ・ 個人消費は、おおむね横ばいとなっているが、足下で弱い動きもみられる。

先行きについては、原油価格等の下落による一定の効果が期待されるものの、世界的な金融危機の深刻化や世界景気の一層の下振れ懸念、株式・為替市場の大幅な変動などから、雇用情勢などを含め、景気の状態がさらに厳しいものとなるリスクが存在することに留意する必要がある。